

「西村大臣の酒類提供自粛発言に憤りを感じてますが？」

令和3年7月14日

●皆さんからの質問

西村大臣の酒類提供自粛発言に憤りを感じてますが？

●西田昌司の答え

西村大臣の以下の発言が大炎上となったために直ちに撤回されて西村大臣は謝罪しましたが、私も西村大臣の発言にはあきれてしまいました。

協力頂けない店に対し、酒の販売事業者に酒類の提供を行わないよう要請を行い、(飲食店への)要請、命令、過料の手続きを厳格に対応していく

金融機関はさまざま日常的にやり取りを行っていると思いますので、法律に基づく要請あるいは命令でありますから、しっかり順守して頂けるよう、金融機関からも働き掛けを行って頂きたい

緊急事態宣言を出しても、政府の自粛要請に従わずに(いわゆる)闇営業をされる飲食店があります。そうすると、緊急事態宣言自体に意味がなくなりますので、(いわゆる)闇営業をさせないために酒の販売業者や金融機関に圧力をかけようと西村大臣は踏んだのでしょうが、これは全くのお門違いです。

(いわゆる)闇営業をしておられる方々は、何もコロナを蔓延させたくてやっているわけではありませんし、今の協力金では足りないので生きるために営業せざるを得ないのです。ですから、そういった苦境に立たされた人々をどうやって救うかを考えるのが西村大臣の仕事のはずです。

そのためには、協力金の額を増やしたり、それでも協力金だけでは足りないのであればとりあえず融資という形で経営を続けてもらって、失った粗利については後から政府が全額補償すると責任持ってアナウンスすべきです。そうすれば（いわゆる）闇営業をする必要もありませんし、政府の要請に皆が従うでしょう。

政府には、要請に従わない店に対して強権でもって営業を妨害する権限などそもそもありませんし、今回の西村大臣の発言は頭がおかしいと思われても仕方のない程に血迷っています。西村大臣はコロナ禍を乗り越えるためにはひたすら自粛すべきとの考えをもっておられるようですが、それがそもそもの誤りです。

酒類提供を止めたり、時短営業をしたとしても、それでコロナの蔓延を防止できるわけではありません。感染の主な原因は飛沫ですから、いかに飛沫感染を防ぐかについての知恵が必要です。換気の悪い小さな密閉空間において酒を飲んで長時間に渡ってどんちゃん騒ぎをすれば感染リスクが高まりますが、そういった環境を排除すれば、飲食店の営業を制限することなく感染リスクを抑えることは十分に可能です。

換気の良い場所で飛沫が飛ばないような仕組み（ボードを置いたり、マスクをする等）を考えれば飛沫感染リスクを抑えられますし、酒を提供する店であっても、大声を出すのを控えてもらったり、時間制限を設けて延々とどんちゃん騒ぎが続くようなことをさせなくすれば、感染リスクを抑えることができます。

コロナが騒ぎ立てられてから1年半が経って様々なデータが揃ってきている現在、エビデンスに基づいた科学的な対応をすれば、経済活動を抑えることなくコロナ禍を乗り越えられるはずなのに、（酒類提供自粛等の）未だに意味のない対策ばかりをしています。

小規模の店であれば協力金をもらって休業すればかえってこれまでよりも

儲かるということにもなりますが、逆に、チェーン店のような大規模な店は（家賃や人件費等の）固定費が多くかかって協力金程度ではとても足りないという現実があります。人件費を減らすために労働者を解雇したくても、景気が戻ってこれば解雇した労働力を補うのが大変ですから簡単に解雇もできません。

大規模な店にも補償をきちんとすべきなのは当然ですが、補償の金額を算定するにも時間がかかってしまってスピーディーな対応は現実には難しいのです。ですから、まずは融資や雇用調整助成金によって事業を継続していただいて、雇用を維持してもらわなければなりません。

その後の返済については、確定申告に基づいて債務免除すれば問題ありません。もしも固定費が売上よりもずっと大きいのであれば赤字申告となりますが、その赤字はまさにコロナによって被った赤字ですから、債務免除をすれば補償をしたのと同じことになります。そうすれば、コロナ禍による倒産を防ぐことができますし、コロナ禍が過ぎ去った後はこれまで通りの営業をすることもできます。

いろいろと知恵を絞れば、コロナの感染リスクを抑えながら、お酒を提供する店であっても営業を続けられますし、営業を停止したとしても補償があれば再開することもできます。

コロナによる自粛によって国民は多大なストレスを抱えていますが、知恵を出せば感染を抑えながらそれなりにストレスを発散して頂いて社会の活力を維持することもできるのです。そういった努力を全くせずにただただ国民を強権によって抑えつけようとするなど、政治の責任放棄に他なりません。

本来は優秀なはずの西村大臣ですが、誰かが西村大臣に入れ知恵をしたのかもしれない。西村大臣は当然のことながら官僚とすり合わせて様々な発言をされているでしょうが、今回の発言をする前に通常であれば官僚からストップがかかるに違いありません。それがそうはならず資料を渡されて背

中を押されたのだとすると、西村大臣を嵌めてやろうという何らかの力が働いたのかもしれませんが……まあ、そんなことはないでしょうが、そのように勘ぐってしまう程、今回の発言は稚拙であったと言わざるを得ません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>